

# 南方神社秋季大祭

=10月12日(水)=



## 伝統の馬頭尾太鼓踊り

### 11月号

- 祁答院町の世帯数 1,785世帯
- 大村の世帯数 359世帯
- 祁答院町の人口 男1,701人 女2,028人 合計3,729人
- 大村の人口 男376人 女422人 合計798人
- 協議会加入世帯数 285世帯

28年7月 現在

月刊

おおむら

大村地区コミュニティ協議会  
〒895-1501  
薩摩川内市祁答院町下手2396-1  
TEL/FAX 0996(55)1261

### 秋の交通安全運動防犯パトロール =9月23日午後8時から=



### =新学期に向けて=

9月21日、秋の全国交通安全運動の初日、第2回ポイ捨て防止運動を展開しました。本年度から始まった薩摩川内市衛生自治連合会の事業ですが、今後も折につけ単発的に行う予定です。自治活動部会委員が携行している幟とガードレールに取り付けた横断幕はその後1週間ほど街頭に掲げ、ポイ捨て禁止を啓発しました。

### 秋の全国交通安全運動



### 第2回ポイ捨て防止運動



### 収穫前の田んぼを横目に

### 大村歴史さんぽ

6

### 猿田彦神社 (やっさどん)

▼前号で猿田彦神にまつわる逸話を割愛したが、FMさつま川内の某女子より「詳しく書いて」とお叱りを受け孫引きで誠に恐縮であるが挿話として引用する。▼旅の僧が一夜の宿りに大樹の影にふせついていると、夜中に二、三十騎ばかりの騎馬隊がどやどややってきて、「樹の本の翁」はいるかとおおらぶ。するとどこからか声がして、いることはいるが今夜は一緒にいけない、と同行を断った。▼荷負の馬の足の骨が折れて手当てをするか他の馬を都合するかしらないと、何分にも私は老齢で歩くのも不自由でまなならないと、声だけの「樹の本の翁」は弁解している。▼夜が明けて、不審に思った旅僧が、声のしたほうを調べてみると誰もいない。代わりに木像のおそろしく古びた道祖神が立っていて、その前に板に描いた絵馬がある。昨夜の声の主は、さてはこの道祖神だったのか。ついでに、絵馬の馬の足のところが破れているので、つくろってやる。▼好奇心につられてその夜も樹の下に宿った。すると、また騎馬の一行が来て、馬の足の治った翁をどこぞへと連れ去った。夜が明けて翁が言うには、「昨夜は絵馬の修理を有難う。騎馬の一行は行疫神どもで、国内をめぐるとき、必ずこの翁を前使にと連れ出します。言う事を聞かないと答で打つ。それというのこんな下劣の神の形をしているからですが、ひとつお願いがござる。この樹の下で三日間法華経を誦して下らぬか。さすれば功德によりこの卑しい身が貴き身となり菩薩の位に昇ることになりましょう」▼乞われのままに読誦すること三日。かねて言われたように、小さな柴の木の船を造り、道祖神の木像をのせて海に浮かべると、たちまち南を指して走り去って行った。▼と、これが『今昔物語集』巻第十三集第二十四「天王寺の僧道公法花を誦して道祖を救えること」のあらましである。▼道祖神と猿田彦神が同一である事を忘れてはならない。